



子どものけいれん

子どもは時々けいれん（ひきつけ）を起こすことがあります。もしわが子が目の前でけいれんを起こしてしまったら、とてもびっくりし怖い思いをするに違いありません。そんな場面に出会ってもあわてないですむよう、けいれんについて少し知っておきましょう。



けいれんの原因にはいろいろありますが、ほとんどが10分以内に止まります。でも実際に経験してみるととても長く感じます。

10分以上続く場合にはけいれんを止める処置が必要なので、救急車を呼びましょう。1時間以上けいれんが続くと脳の機能に影響することがあるからです。

熱性けいれん

子どものけいれんの中で最も多く、高熱に伴って全身のけいれんを起こします。日本では生後5~6ヶ月から6歳くらいの子どもの5~6%に見られる、ごくありふれたものです。

症状

- ・熱の上がり際に多く、突然意識がなくなり、白目をむいて体をそらせるように硬くしたり手足をがくがく震わせたりする。
- ・顔色が悪くなり、時に紫色になる。

大半は数分~5分以内に止まり、一旦意識が戻ってその後寝ます。全身状態がよければあわてて受診する必要はありませんが、心配な点がある場合は診察を受けましょう。

ただし、発熱時のけいれんの中でも…

- ①10分以上続くけいれん重積状態
- ②生まれて初めてのけいれん
- ③1才までの乳児のけいれん
- ④けいれんの前後に頭痛、嘔吐、意識障害を伴う場合
- ⑤けいれんに左右差やけいれん後に麻痺を伴う場合



このような場合は、単なる良性のけいれんではない可能性があるため早期の受診が必要です。

熱性けいれんが長く続いたり、2～3回以上起こしたりしたときは、予防を必要とする場合がありますので主治医に相談しましょう。

てんかん

熱性けいれんの次に子どもによくあるけいれんです。熱もないのにけいれんを繰り返すときにはてんかんを考え、主治医に相談しましょう。脳波検査で異常があることが多い病気で、子どもの1%にみられます。

診断されると抗けいれん剤を服用しますが、きちんとした治療を受ければ、ほとんどが子どもの間によくなります。

その他のけいれん



・泣き入りひきつけ

泣いた後、空気を吸ったまま吐き出せなくなり、徐々に顔色が悪くなりチアノーゼという状態になります。泣きやんでおさまるようなものであれば、心配ありません。

・ウイルス性胃腸炎に伴う無熱性けいれん

1～2歳前後の乳幼児で脱水を伴わない程度の軽症の下痢症でけいれんを起こすことがあります。その場合には受診しましょう。

これは特に冬季の乳児下痢症の原因として多いロタウイルス腸炎、ノロウイルス腸炎でしばしば伴います。

けいれんが起きたときは

時間をはかる

衣服をゆるめ、呼吸しやすくする

顔を横向きにして、吐物で窒息しないようにする



★ 落ち着いて状態をよく観察します。

- ①けいれんの持続時間
- ②発作中の身体の様子
- ③体温
- ④けいれんが終わってから意識が戻るまでの時間



医師に症状を伝えるのは診断のために重要です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>